

番号	7	事業名	道路改築事業	市町村名	松本市	路河川名	(国)143号	箇所名(ふりがな)	岡田拡幅(おかだかくふく)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	当区間は、松本市から上田市に至る中信地域と東信地域を結ぶ主要な幹線道路であるとともに、地域住民にとっての重要な生活道路である。しかし、幅員が狭小で、大型車の交通量も多く、すれ違いが困難であった。また、大型車のすれ違い時はぎりぎり路肩部分も狭いことから生活道路として使用している住民にとって非常に危険な道路であった。そのため、交通事故が後を絶たず、平成12年度には死亡事故(1件)も起きていたことから、市・町会・沿線住民から改良を望む強い要望があった。 平成15年より事業に着手(1期工区)し、一連の区間として効果が発現されるように地元からの強い要望により平成18年に事業区間を延長した(2期工区)。 平成21年に1期工区の工事が完了し、平成24年に2期工区の工事が完了している。						②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
								○生活環境の向上・・・沿道の土地利用が増加(賃貸マンション2棟→3棟、飲食店0店→1店) ○生活環境の向上・・・渋滞の解消によるCO2排出量が低減されるなど、沿道の生活環境が改善された。	B	
事業目的	主要な幹線道路であるとともに、重要な生活道路で、松本市街地へのアクセス道路としても利用されているが、幅員が狭小で円滑な交通や歩行者の安全確保に支障をきたしていた。本事業区間を拡幅改良することで、円滑な交通を確保するとともに、生活道路としての快適性、安全性の向上を目的としている。						③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
							○道路パトロールを毎週1回行っており、良好な状態の確保に努めている。 ○道路拡幅により、冬期間の除雪作業性が大幅に向上した。	B		
事業概要	当初工期	H15~H21	費用対効果(当初時)	3.1	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	最終工期	H15~H24	費用対効果(評価時)	2.1	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	
	当初計画内容(主な工種)	道路築造工 L=910m W=6.5(12.5)m			1,200,000	600,000			600,000	
	最終事業実績(主な工種)	道路築造工 L=1260m W=6.5(12.5)m			1,609,000	804,500			804,500	
事業期間の延長、短縮理由と分析	平成18年に地元要望を受け、通学路となっており一体的に整備することで交通安全性の向上の効果が見込まれる岡田東区交差点まで事業区間を350m延伸したことによる。						④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)	評価	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	平成18年に延伸した350m分の工事、用地補償費が増加したため。						改善措置の必要性	なし		
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)						評価			
	直接的効果(定量的・定性的)	○交通の利便性向上(アクセス向上、交通の円滑化)・・・旅行速度 28.9km/h(H11)→51.1km/h(H27) 四賀地区から信州大学病院への救急搬送時間短縮 18分→13分 ○交通の安全性向上(歩行者等の安全確保)・・・人身事故件数 7件(H17)→3件(H25)						今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	○事業完了後の施設が良好に維持されている。今後も道路パトロールなどにより適切に維持管理を行う。 ○用地買収が困難な箇所は、地元地域の協力を得て、粘り強く交渉していく必要がある。 ○新聞掲載などの報道により、道路の必要性をPRする事が大事である。	B
	間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	○生活環境の向上・・・沿道の土地利用が増加(賃貸マンション2棟→3棟、飲食店0店→1店)						所管課意見	○道路整備により、交通の円滑化と歩行者の安全性の確保が図られていることから、事業の目的を達成している。	県の自己評価 A
						技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。			